藤枝・図書館友の会ニュース

＜第 24 号・2016 年 1 月発行＞

２面・『図書館は地域の「知の拠点」』　３面／第２回ビブリオバトル　４面／図書館大会報告

藤枝・図書館友の会主催　源氏物語・連続五回朗読会

光源氏をとりまく女性たち

日本文学史上の最高傑作といわれる源氏物語は、千年以上前に書かれた長編恋愛小説。
欧米にも紹介されている世界的な名著に挑戦してみると、500人近い登場人物が複雑に絡み合い難解さに挫折した方も多いのでは…
今回の源氏物語連続朗読会は登場する女性に焦点を当て、女君ごとに紹介する朗読会。
大石さんの朗読を聴く形式で、事前の読破がなくても大丈夫。全5回のうち、3回が終り、「夕顔」、「葵の上」を残すのみとなりました。
この機会に、世界的名著に触れてみてはいかがでしょう。（朗読は、瀬戸内寂聴訳本を使用します）

↓朗読する大石さん

◆朗　読　　大石美代子さん（岡部朗読会主宰）

◆内　容　　第4回　2016年2月14日（日）13:30 から　夕顔
第5回　　3月　6日（日）14:00 から　葵の上
＜3月6日は、友の会総会（13 時～14 時）に引き続く開催＞

◆会　場　　藤枝市立駅南図書館・集会室

◆定　員　　40名（申込先着順）

◆会　費　　300円／回（資料代）　1回ずつ参加できます。

◆申込先　　電話・Fax054―635―0122　会・事務局

朗読会の様子→

藤枝・図書館友の会　2016年度総会開催のご案内

下記の日程により、友の会総会を開きます。会員の皆さまのご出席をお願いします。
また、当日、2016年度会費（一口 1,000 円）を申し受けますので、よろしくお願いいたします。

日時／2016年3月6日（日）　13時～14 時（引き続き、源氏物語朗読会第5回を行います）
会場／藤枝市立　駅南図書館3階集会室
議事／①2015 年度活動報告　②2015年度会計報告・会計監査報告
③2016年度活動方針案、会計予算案　④役員選出、当面の活動方針　その他

この会報に同封しました葉書により、出欠をお知らせくださるよう、お願い申し上げます。

知の拠点・公共図書館の運営は自治体の責任

"市立図書館の運営は民間委託することなく、市の直営で"…友の会の要望に、藤枝市は「北村市長のもとでは直営を堅持する」、と明言されています。全国各地で、公立図書館の運営をめぐる問題が後を絶ちません。

このほど、下記の論文が読売新聞紙上に掲載されましたので、公共図書館の運営基本を考える資料として紹介します。

『図書館は地域の「知の拠点」』

片山善博　（慶応大教授・元総務相）

愛知県小牧市で先日、図書館のあり方をめぐって住民投票が行われた。市はそれまで、書店・レンタル店を展開する企業に市立図書館の運営を委ねる方針でしたが、市民の判定は「ノー」だった。

住民投票を後押しすることになったのが、同じ企業に運営を委ねている佐賀県武雄市で発覚したずさんな選書だった。10年以上前の今では使用されていないパソコンの基本ソフトの解説書や、埼玉県内のラーメン屋の紹介本などが問題視された。この種の市民にとって意味のない古本が数多く購入される一方で、貴重な郷土資料が脇に追いやられていたという。この件に限らず、筆者は自治体が公共図書館を地域外の民間業者に委託する傾向に違和感を抱いている。そもそも公立図書館は、市民にとって必要な本や資料を保存、現在だけでなく将来の市民の利用にも供するのを使命とする。

そこには地域にしかない歴史や文化伝統などに関する貴重な本や資料も含まれるのだから、図書館とは地域の知の拠点、知の貯蔵庫のような存在である。その貯蔵庫を切り盛りするのは、地域に愛着を持ち、地域の歴史や文化や伝統の価値を十分に理解し、末永くそれらを育んでいける人たちであるべきだと思う。

ところが、最近増えてきたのが公共図書館の民間委託である。もっぱらコスト削減をねらいで、入札により数年単位で地域と無縁の企業に任せ、中には特定企業と結び図書館を「賑わいの場に」する試みも見られる。およそ知の拠点にふさわしくない扱いだと思う。自治体が単に図書館の意義を理解せず、それを軽んじているだけでなく、地域の歴史や文化や伝統をも軽んじていることにほかならない。

もう一つ違和感を抱いているのが、図書館の運営が書籍流通業に携わる企業に委ねられることである。武雄市の例はその典型だ。そもそも図書館と書籍流通業はミッション（使命）を異にしている。図書館の使命が市民に必要な本や資料を整えることにあることは既に述べた。他方、書籍流通業は利益を上げることを目的とする。もし、在庫処分に困っている本や格別安く仕入れた本を定価で売りさばければ、利益は最大化する。市民にとって必要な本と利益最大化できる本とは必ずしも一致しない。では、どちらを優先させるか。図書館の運営を書籍流通業に携わる企業が兼ねているとすれば、ついつい最後の方を優先して選書することにもなるのではないか。武雄市の例がそうだと断定するつもりはないが、ミッションが錯綜している組織では、一般にそんなことも起こりうる。

ミッションが混在する組織はうまく運営されない。原子力発電を推進する部門と安全をチェックする部門が同居していた経済産業省原子力安全・保安院の例は、そのことをよく教えてくれる。

福島の事故にかんがみ、一つのミッションは分離された。こんな例も今後の図書館運営の参考になるはずだ。

（2015・10・29付　読売新聞「論点」に掲載。原文のまま）この掲載は片山氏及び読売新聞社の承諾済みです。

報告「学生ビブリオバトル」

報告／三輪勇介（運営委員）

友の会主催、「第2回ビブリオバトル」を12月27日開催しました。県内の高校生が5分間アドリブで自らの愛読書について語り、参加して頂いた観戦者に最も読みたくなった本を投票してもらいました。

京都大学発祥ともいわれるビブリオバトルは県内に全国覇者を生み、それに刺激された静岡の若者が藤枝でビブリオバトルを企画しました。

ライブ感たっぷりのビブリオバトルで読書の世界が広がりました。（於・藤枝市立駅南図書館）

◆バトラーから紹介された本

1　高校3年生　チャールズ・M・シュルツ、谷川俊太郎著　『ピーナッツと谷川俊太郎の世界』
2　高校2年生　安倍晋三著　『日本の決意』
3　高校1年生　重松清著　『とんび』
4　高校1年生　松岡圭祐著　『探偵の探偵』

◆チャンプ本　重松清著　『とんび』

今回のバトルは、企画・宣伝・組織・運営すべてを高校生が担当しました。緊張の中、バトル開始！

4名の発表は本のジャンルも様々で、ユーモアを交えたり、核心をついた発表など個性豊かで堂々としたものでした。

質問タイムでは観戦者から本の魅力を引き出す質問があり、徐々に和やかな雰囲気になっていきました。発表が終え、一番読みたくなったチャンプ本を観戦者の皆さんに投票して頂きました。

栄えあるチャンプ本は、心に響く発表と家族愛が本のテーマである「とんび」でした。

皆さんも一度ビブリオバトルを体験してみてはいかがしょうか？

＜アンケートの感想文から＞

PCを十分に利用した会場設定は見事でした。もっともっと若い人の参加が増えるといいなと思います。

高校生だけでビブリオバトルが開催されるのは良かった。高校生と意見交換できてよかった。内容自体はとても良かったので、もっとPRして多くの人に来てもらえればと思います。

4人の本の紹介は聞いていて楽しかったです。本のジャンルも4人違うので自分が好んで読んでいるものと違う本にも興味が湧いてきました。

第3回、第4回と続けて欲しいです。たくさん本を読んで、面白い本を見つけたらまた紹介（バトル）してください。

高校生が企画・宣伝・実行したエネルギーは素晴らしいと思います。参加人数は少なくても構わないのだけれど、もう少し広く知らしめる期間、周知方法は検討した方が良いですね。

初めて体験しました。実際に見たり聞いたりして、思っていた点と違う点もありましたが参加して良かったです。この体験を生かして、職場でやってみたいです。

ルールの説明を実演してくれたのがわかりやすくて良かったです！高校生らしいビブリオバトルでした。友達や先生も巻き込んで、学校内でも広めてください

前回はなかったプロジェクターに本の表紙が表示されるサービスは嬉しかったです。また、本の蔵書を教えてもらえて良かった。

年末ということで参加人数が少ないが、少人数の方が本音で話せたり全員が発言できることができて良かったと思う。続けていくことが大切と思う。

観戦者…11名（男性5名、女性6名）
参加者の住所…藤枝市・9名　焼津市・1名
静岡市・1名

事務局から　この"バトル"は高校生が企画し、彼らが参加し易い時期にと、急遽設定・実施となったため、会員の皆さまにお知らせする術がなく、周知不十分での実施となったことをお詫びします。

人とまちの未来のために～図書館でできること、図書館ができること～

静岡県図書館大会・報告　南雲初義（友の会会長）

2015年11月9日（月）グランシップで、第23回静岡県図書館大会が開催されました。県内の図書館に関わる職員、友の会のような市民ボランティア、読み聞かせボランティア等約1000人の人々が参加。

開会式で、河原崎静岡県図書館協会会長が、その年の6月に実施した私たち友の会の第19回県図書館交流会の鎌倉幸子氏講演にも言及し挨拶されたのが印象的でした。

表彰式では、朗読グループ・かざぐるま（焼津市）はじめT団体の読み聞かせグループが表彰されました。「かざぐるま」は36年継続して活動しています。

恒例の情勢報告は山本　宏氏（日本図書館協会副理事長）が行いました。要旨は次の通りです。
①全国の公共図書館数（3246館、2014年）が減少に転じた。　②資料費が1998年比較で8割に減った。
③指定管理者制度導入（426館／3246館中、2014年現在）については「TSUTAYA」グループ等、半数以上のところで民間企業が管理者になっていて問題も生じている。文科省も長期的視野で見ると支障があると言明。　④2015年6月学校図書館法が改正され、学校司書の配置が義務付けられた。文科省は「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」を設置。日本図書館協会も「学校図書館職員問題検討会」で検討を開始。

午前中の最後に表題のテーマでライブトークが行われた。コーディネイターは岡本　真氏（アカデミック・リソース・ガイドKK代表取締役）。パネリストは神代　浩氏（文科省科学技術・学術総括官県政策課長）と松本茂章氏（静岡文化芸術大学文化政策部教授）。概要は以下の様です。

岡本発言…①今まで全国の図書館を1000か所以上訪問した。今回も藤枝駅南図書館を見学。サッカー本が資料として多くあったのが印象に残った。　②図書館としてすべきでないこと。「24時間、365日図書館」はダメ。何でもかんでも図書館がやるべきでない。　③指定管理者制度については見直しが必要。図書館職員は一歩でも外へ出て近隣文化施設の人達と仲良くすること。

神代発言…①図書館海援隊（2010年1月5日発足）組織。就職へのアドバイス。地域住民が抱える課題解決に向けた支援。約50館参加。　②災害時は新聞情報が重要（事例、茨城の図書館）。　③まち、ひと、しごと創生総合戦略（平成26年12月27日）に「図書館」も明記されている。

松本発言…①日本の文化施設を歩き、官民協働のまちづくりを考えている。　②「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（2012年6月27日）が初めて出来た。従来は地方自治法244条を根拠にしていた。
③図書館が夜開館しているのは、安心安全の効果がある。

午後は6分科会で討議が行われました。全国でも県のレベルでこのような大会を開催しているところは殆んどありません。図書館関係職員と市民が協働して、静岡の公共図書館、学校図書館をさらに充実させたいと考えています。

図書ボランティア「てんとう虫」、厚労相感謝状を受賞

藤枝・高洲地区交流センター図書ボランティア「てんとう虫」が、本年度ボランティア功労者に対する大臣感謝状を受賞しました。

11月24日、市役所で北村市長から伝達を受け、翌日の静岡新聞紙上で大きく報道されました。1985年6月に発足後30年の長きにわたり、読み聞かせを通じて子どもたちの健全育成に貢献したことが評価されたものです。

代表の荒牧喬子さんほかメンバーの多くが友の会会員で、日ごろから会の活動に協力をいただいています。

荒牧さんは「仲間や高洲地域の皆さんに支えられて受賞できたことに感謝したい。これからの活動の励みにしたい」と話してくれました。おめでとうございます。これからも頑張ってください。

藤枝・図書館友の会ニュース第24号
2016年1月発行

TOTOMO

友の会連絡先　〒426-0044
藤枝市大東町304-3　桑原方
電話・FAX054-635-0122
HP 藤枝・図書館友の会　検索